

スーパーコンピュータが拓く未来

主催 ■ 清和地区青少年健全育成町民会議

8月24日、清和体育館で、清和地区青少年健全育成町民会議の講演会が開かれ、世界最高水準の計算速度を誇るスーパーコンピュータ「京」のアプリ開発に携わった、清和地区出身の門岡良昌さんが子どもたちに語りかけました。

なせばなる
夢を信じて
Yosimasa Kadooka



門岡良昌氏

富士通(株)アプリケーション開発
統括部長/理学博士
1957年12月16日生まれ。中学2年まで山都町清和で過ごす。その後、済々黌高・熊大・九州大大学院を経て富士通(株)へ。2006年からスーパーコンピュータ「京」の開発プロジェクトに携わる。趣味は剣道(四段)。



←スーパーコンピュータ「京」。文部科学省による「京速計算機システム」開発計画に応じて、独立行政法人理化学研究所と富士通(株)が共同開発。培ってきたその技術力を結集した、世界最高の性能を持つ超大規模並列スーパーコンピュータ。スーパーコンピュータの性能ランキングであるTOP500で、2011年6月、11月と2期連続して世界一の性能を持つシステムとして認定された。
(写真) スーパーコンピュータ「京」(写真提供:理化学研究所)

「このころは1クラス38人いて、一緒にたくさん遊んだ。青い梅の実を食べると食中毒になった苦い思い出もありますが...」演壇に立った門岡さんは、スクリーンに映し出される幼少時の写真を見て、思い出すようにゆつくりと語りだしました。小学校3年生のとき、担任の井芹ミツエ先生に「なせばなる なさねばならぬ なにごとも なさぬは人のなさぬなりけり」という言葉を教わり、深く感銘を受けます。以降、目標に向けて全力で努力するようになった門岡さん。野球のレギュラーや、医者、博士、学校の先生など、夢や目標は年齢とともに変わりましたが、そのときできる努力を惜しまず続けました。希望する高校に入るため、午前2時に起きて勉強強していたそうです。「でも、勉強ばかりしていたわけではありませんが、友人たちとはよく遊びました。」

「このころは1クラス38人いて、一緒にたくさん遊んだ。青い梅の実を食べると食中毒になった苦い思い出もありますが...」演壇に立った門岡さんは、スクリーンに映し出される幼少時の写真を見て、思い出すようにゆつくりと語りだしました。小学校3年生のとき、担任の井芹ミツエ先生に「なせばなる なさねばならぬ なにごとも なさぬは人のなさぬなりけり」という言葉を教わり、深く感銘を受けます。以降、目標に向けて全力で努力するようになった門岡さん。野球のレギュラーや、医者、博士、学校の先生など、夢や目標は年齢とともに変わりましたが、そのときできる努力を惜しまず続けました。希望する高校に入るため、午前2時に起きて勉強強していたそうです。「でも、勉強ばかりしていたわけではありませんが、友人たちとはよく遊びました。」

夢を抱いた清和での少年時代 私の原点は今も清和にある 育ててくれてありがとう

2ケタのかけ算を5秒で行うとした場合で16億年かかる。「京」は、東日本大震災の津波解析などの災害・防災に役立つシミュレーションや、東京大学と富士通が行う世界最高の心臓の研究に役立てている。」とスーパーコンピュータ「京」の社会貢献への可能性を話しました。「コンピュータの世界は進歩が速く、今年世界最高の性能でも、6年後にはランキング500位にも入らない厳しい世界。数年前、事業仕分けで「2位じゃだめなんですか?」との指摘を受けたが、あの一件で日本でスーパーコンピュータを作っているとみんなが知ってくれたことは良かった。」

「日本は資源が乏しい国。世界と勝負するには人間力しかない。世界最高の知恵を活かし、どこよりも早く実用化するには、膨大な計算があるシミュレーションが必要。そのためには、世界最高の計算速度を持つスーパーコンピュータが必要なのです。他国にあるからいらぬとの意見もあります。しかし、その世界最高の性能を他国が日本に簡単に提供するはずがない。知恵と技術を使えなくなる

と日本はどんどん世界から取り残されてしまう。そのために日本で作る必要があるのです。」「京」が世界1位である理由は、日本が世界で生き残るすべのひとつであると語った門岡さん。

「小学校の頃、世界を舞台に仕事したいという夢は叶った。心臓の研究では医者と同じ立場で研究し、大学などで講義を行う先生にもなれた。ここ清和で生まれ育った私にできた。みなさんにも

同じような可能性がある。夢を持ち、可能性を信じて『なせばなる』の気持ちをもってほしい。だからといって、先ばかりみてもいけない。目の前にある課題を一生懸命やること。どんな努力も決して無駄にならない。そして社会の役に立つということも考えてほしい。」と、会場を埋めた清和小・清和中の生徒に向けてメッセージを送りました。

「清和にいるころはたくさんの方

方に支えていただいた。今日ふるさとで、これまで社会のためにがんばってきたことを、未来をもつた子どもたちに伝える機会を与えてくれたことに感謝しています。今も、私の原点は清和だと思っています。育ててくれてありがとう」と締めくくった門岡さん。感謝の思いが溢れて言葉に詰まる場面も。門岡さんのふるさとへの熱い思いを感じる講演会となりました。



会場には、清和時代の知人・友人がたくさん訪れて、門岡さんも再会を喜んでいました。